

# タマシャモレットド 飼養管理マニュアル

(令和8年3月)



埼玉県農業技術研究センター

# — — — 目 次 — — —

1	タマシャモレッドについて	4
2	「タマシャモ原種」と「彩の国地鶏タマシャモ」について	6
3	飼養管理方法	
(1)	雛受入れ準備	7
(2)	雛の受取り	8
(3)	導入後の飼養管理	9
(4)	廃鶏	12
(5)	光線管理	12
(6)	飼料	13
4	体型・外観・標準能力	14
5	参考	
○	産卵性能	
・	週齢毎の産卵能力	15
・	ヘンディ産卵率の推移	16
・	日産卵量の推移	17
・	平均卵重の推移	18
・	週毎の平均卵重および鶏卵規格別の割合	19
・	週毎の鶏卵規格別の割合	20
・	週毎の体重	21
・	食鳥時のと体重および正肉重量	22
○	飼料	
・	各週齢における飼料摂取量と配合飼料の種類	23
・	飼料摂取量の推移および配合飼料成分	24
○	鶏卵の品質	
・	週毎の卵殻強度および卵殻厚	25
・	卵殻色	26
・	ハウユニット	27
・	卵黄卵重比	28

- 成鶏肉の品質
  - ・ 成鶏肉の食味評価およびイノシン酸含量 . . . . . 29
- その他
  - ・ 点灯管理プログラムの一例 . . . . . 30
  - ・ ワクチン接種 . . . . . 31
  - ・ 暑熱ストレスが産卵性に及ぼす影響 . . . . . 32
  - ・ 雛の受渡し場所の地図 . . . . . 33

# 1 タマシャモレットについて

県内養鶏農家の多くは卵の直売を行っており、収益性をさらに高めるためには、地域ブランドの確立や商品の独自性の付与など、鶏卵の高付加価値化が求められています。

そこで、「スタートアップ！卵肉いいとこどり開発事業(2021～2025年度)」として、埼玉県が保有する「タマシャモ原種」の血統を引き継いだ県オリジナルの卵肉兼用種の開発を行いました(図1)。

タマシャモ原種を利用することで、独自性の他にもシャモ卵の特徴である高い卵黄卵重比(図2)やうま味(イノシン酸)の豊富な肉(図3)など、卵や肉の高付加価値化による有利販売が期待できます。

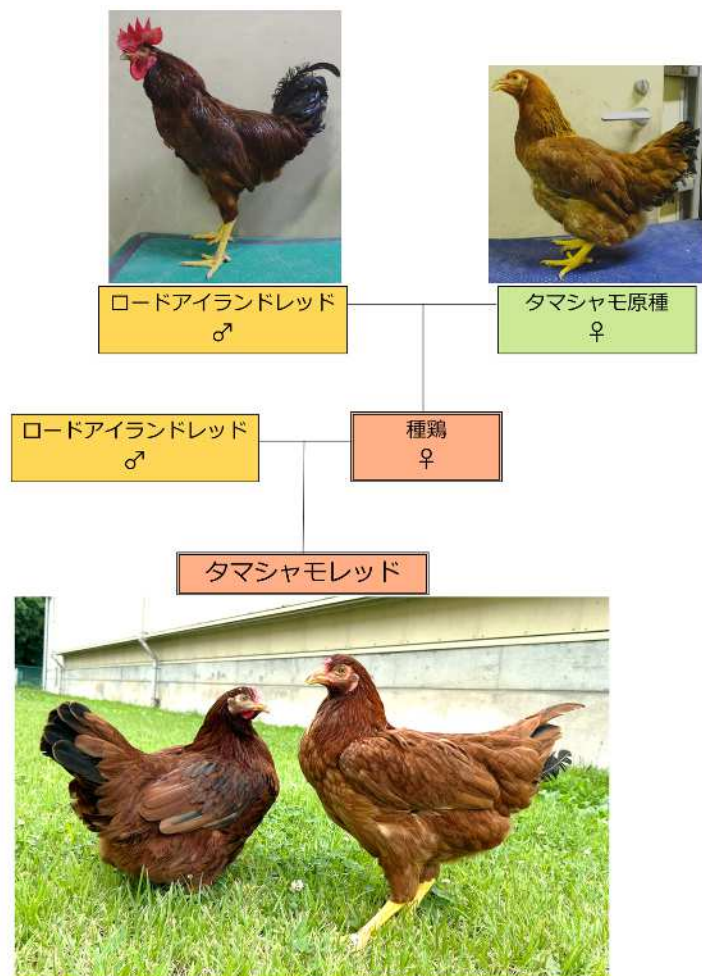


図1 タマシャモレットの交配様式

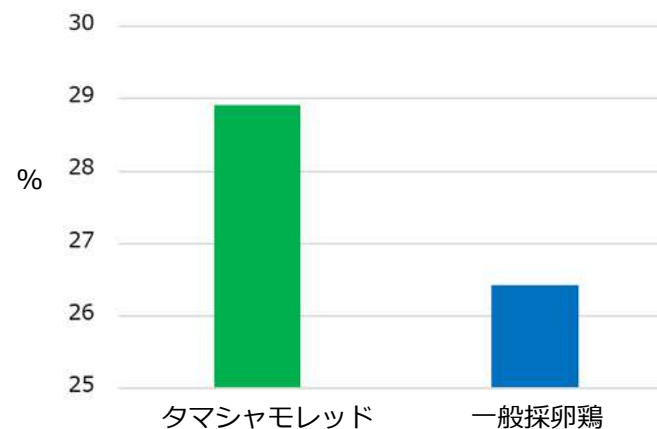


図2 卵黄卵重比の比較

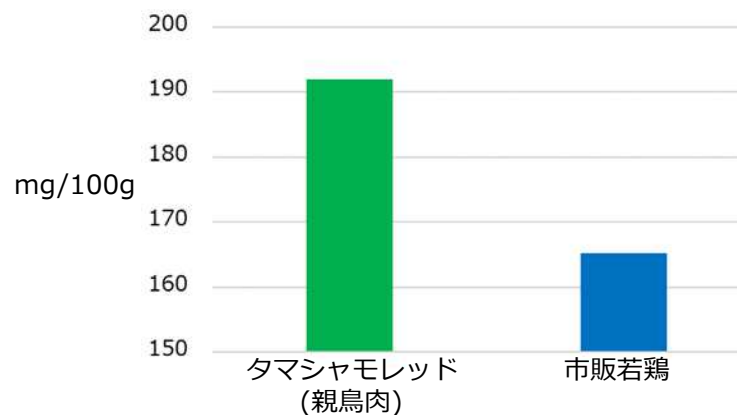


図3 ムネ肉中のイノシン酸含量の比較

開発に当たっては、広く県内の農家に普及するため、ケージ飼育に適したサイズにすること（図4）、一般的な採卵鶏に産卵能力を近づけること（図5）、卵の直売に適した丈夫な卵殻を持つこと（図6）を目標としました。さらに、採卵鶏としての役目を終えた後の親鶏肉についても、農家の収益向上となることを目標としています。

なお、県オリジナル卵肉兼用鶏の名称「タマシャモレッド」は、複数のネーミング候補から農業高校生による投票で選ばれ決定しました。タマシャモにロードアイランドレッドを交配した鶏であることに加え、鶏肉の赤みや赤卵であることも表現しています。

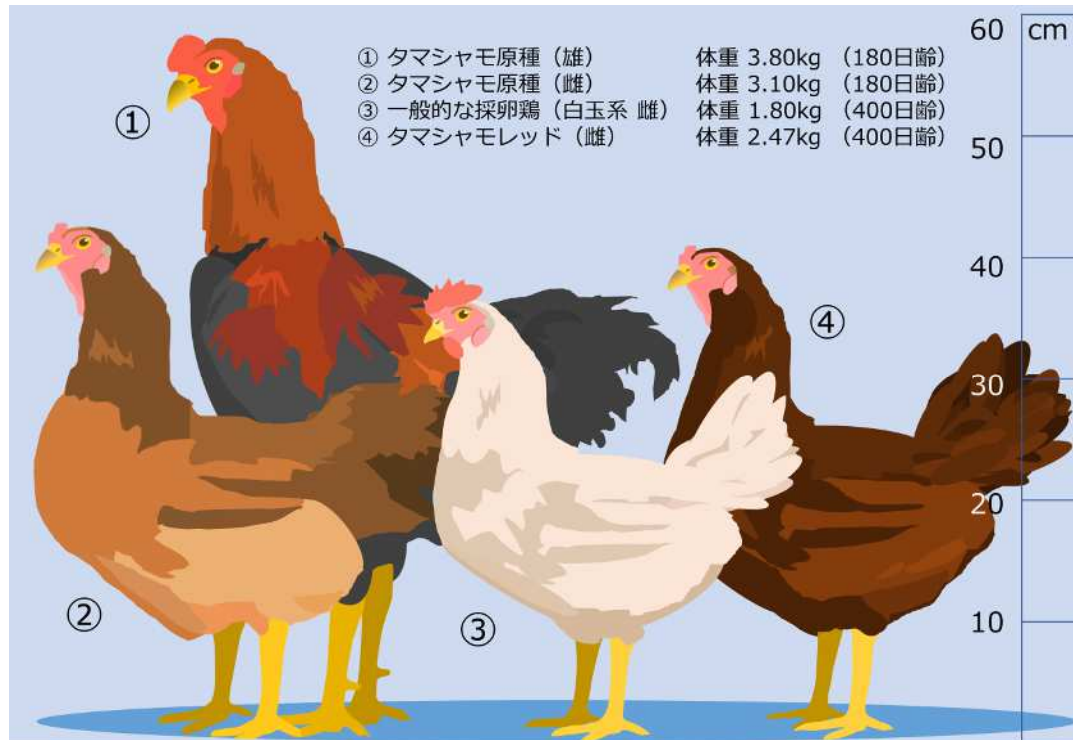


図4 大きさの比較

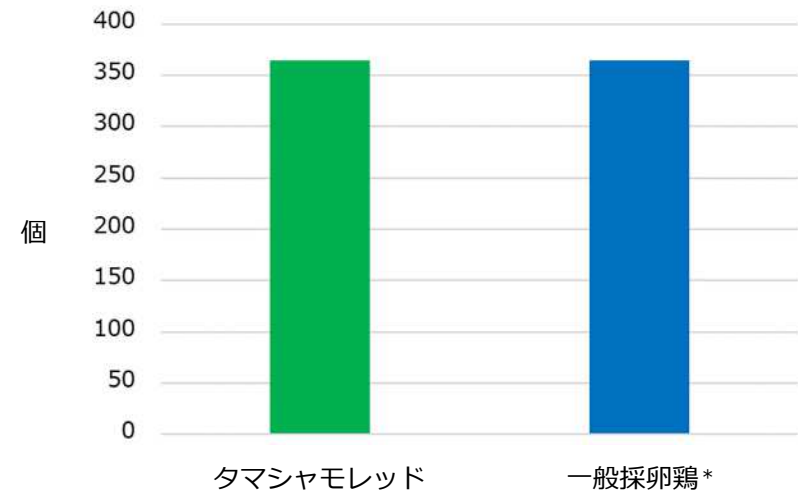


図5 80週齢までのヘンハウス産卵個数の比較  
\* コマーシャル鶏飼養管理ガイド（ポリスブラウン）より

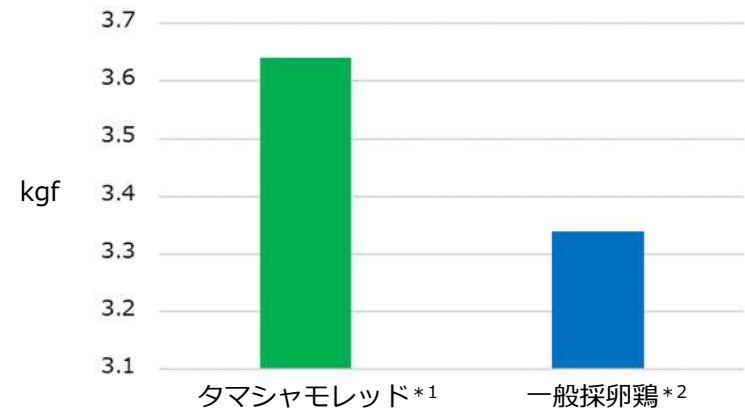


図6 卵殻強度の比較

\* 1 20～80週齢の平均値

\* 2 2019年度パック詰小売鶏卵の規格及び品質検査の概要

## 2 「タマシャモ原種」と「彩の国地鶏タマシャモ」について

「タマシャモ原種」は、埼玉県養鶏試験場（現・埼玉県農業技術研究センター）が大シャモ、大和軍鶏、ニューハンプシャー種をもとに、1984年に作出した大型の肉用専用種鶏です。1989年より、この原種にロードアイランドレッドを交配し、「彩の国地鶏タマシャモ」として、農家への雛の配布を開始しました。

彩の国地鶏タマシャモの体型は、140日齢でオス3.8kg、メス2.7kgで、ももの発育が良く、闘鶏用シャモにみられる攻撃性は抑えられています。シャモの特徴を色濃く反映したプリプリとした歯ごたえと濃厚なうま味が自慢です。うま味成分は一般的なブロイラーと比較して1.5～1.7倍にもなります。その美味しさは、県内・都内の飲食店、スーパー等で味わうことができます。

なお、タマシャモ原種については、高病原性鳥インフルエンザ等の発生による血統消失を防ぐため、県内農業高校と連携した分散飼育にも取り組んでいます。



写真 彩の国地鶏タマシャモの雄（手前）と雌

### 3 飼養管理方法

**一般的な多産鶏銘柄と同様の方法で管理が可能です。特別な飼養管理の必要はありません。**

ここでは、より産卵量を確保するためのポイントを御紹介します。

#### (1) 雛受入れ準備

##### ○ 鶏舎や器具の洗浄・消毒について

- ・ 疾病予防、ワクモの低減・防除のため、空舎期間内に鶏舎や器具の洗浄・消毒をしてください。
- ・ 平飼い鶏舎では、鶏コクシジウム症の対策として、土壌に石灰散布をしてください。また、止まり木や産卵箱は洗浄・消毒後に天日乾燥をしてください。
- ・ 疾病予防のため、空舎期間は最短でも3～4週間を推奨します。

##### ○ 鶏舎設備の確認・補修について

- ・ 野生動物の侵入防止のため、施設や防鳥ネットの破損個所を確認し、修繕してください。
- ・ 環境ストレスは産卵を抑制します。季節に応じて、夏季は直射日光を遮るためによしずや寒冷紗を設置し、冬季は北風を防ぐために隙間を補修してください。

##### ○ 飼育密度について

- ・ 飼育密度を過密にすると事故率上昇につながります。飼育密度の目安として、一般的に普及している23cm幅単飼ケージに1羽飼いを推奨します（参考別添：P21「週毎の体重」の写真）。

## (2) 雛の受取り

### ○ 受取り方法について

- ・ **当面の間、供給は大雛（約112日）となります。**
- ・ **埼玉県農業技術研究センターから農場への輸送業務は行いませんので指定する日時に直接、当センターに受取りに来てください。**
- ・ 受渡し場所は埼玉県農業技術研究センターの南門付近となります（参考別添：P33「雛の受渡し場所の地図」）。

### ○ 輸送方法について

- ・ **輸送用かごは原則、各自で用意をしてください。なお、数量が限られていますが貸出しも可能です。御希望の方については、事前に御相談ください。**必要なかご数は、一般的な廃鶏用移動かご（外寸：815×550×297mm）の場合、1かごあたり7～10羽（大雛）を目安としてください。夏季は過密による移動中の死亡を防ぐため、1かごあたり約7羽を推奨します。移動時間が長い場合や高温多湿が予想される場合は、更に収容羽数を減らしてください。
- ・ 夏季は移動中に暑さにより死亡する危険性がありますので、受渡し時間は早朝となります。埼玉県農業技術研究センターから農場までの距離が長い場合は、直射日光を遮るために移動中、寒冷紗等をかごの上にかけることを推奨します。

### ○ ワクチン、点灯管理プログラムについて

- ・ **育雛期のワクチンは埼玉県農業技術研究センターで接種しています**（参考別添：P31「ワクチン接種」の表）。譲渡の際は、雛受渡しの際に餌付け日、ワクチン接種履歴表、点灯管理プログラムをお渡しします。

### (3) 導入後の飼養管理

#### ○ 鶏の飼養管理方法について

- ・ 伝染病発生予防のため、「飼養衛生管理基準 (農林水産省)<sup>※1</sup>」を遵守した衛生管理が義務となります。
- ・ 「採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針 (農林水産省)<sup>※2</sup>」に基づき、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた管理に努めてください。

※1 飼養衛生管理基準：[https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku\\_yobo/k\\_shiyou/](https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/)

※2 採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針：

[https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/attach/pdf/animal\\_welfare-132.pdf](https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/attach/pdf/animal_welfare-132.pdf)

#### ○ 異状鶏を発見した場合の対応について

- ・ 異状鶏を発見した際は、管内の家畜保健衛生所へ連絡をお願いします。

連絡先	管轄区域
中央家畜保健衛生所 〒 331-0821 住所 さいたま市北区别所 107-1 T E L 048-663-3071 F A X 048-666-8731 E-mail m6333071@pref.saitama.lg.jp	さいたま市、川口市、鴻巣市、上尾市、草加市、蕨市、戸田市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、北本市、伊奈町、春日部市、越谷市、久喜市、八潮市、蓮田市、宮代町、白岡町、三郷市、幸手市、吉川市、杉戸町、松伏町
川越家畜保健衛生所 〒 350-0837 住所 川越市石田 152 T E L 049-225-4141 F A X 048-226-9653 E-mail r254141@pref.saitama.lg.jp	川越市、所沢市、飯能市、狭山市、入間市、富士見市、ふじみ野市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、三芳町、毛呂山町、越生町、東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、ときがわ町、川島町、吉見町、鳩山町
熊谷家畜保健衛生所 〒 360-0813 住所 熊谷市円光 1-8-30 T E L 048-521-1274 F A X 048-526-1063 E-mail k211274@pref.saitama.lg.jp	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村、本庄市、美里町、神川町、上里町、熊谷市、深谷市、寄居町、行田市、加須市、羽生市

○ 産卵状況等の記録に基づく管理について

- ・ 毎日の産卵個数、生存羽数、死亡羽数を記録してください。
- ・ 産卵個数と生存羽数からヘンディ産卵率※を集計し記録してください。

※ ヘンディ産卵率（%）： $\frac{\text{産卵個数}}{\text{生存羽数}} \times 100$

↑  
正常卵（二黄卵を含む）と破損卵の合計個数

- ・ 夏季の開放型鶏舎に導入する場合や、他週齢の鶏との同時飼育で点灯時間が一定となる農場では、50%産卵到達日齢が早くなり、卵重の低下のほか、採卵期間後半の産卵率が低下することがあります。そのために、鶏群の状態を把握するためにも50%産卵到達日齢が重要な指標となります。50%産卵到達日齢の目安は140~154日齢です。この範囲から逸脱している場合は、光線管理の再検討が必要となります。

○ 給餌方法について

- ・ 給餌は朝夕の1日2回を推奨します。原則は不断給餌であり、常に飼槽に飼料がある状態を保つことが重要です。
- ・ 給餌量は、次回の給餌直前に前回分がちょうどなくなる程度が理想です。
- ・ 数日分をまとめて一度に与える方法は推奨しません。跳ねこぼしによる飼料コストの上昇、腐敗、飼料摂取量の低下、栄養バランスの乱れを招く恐れがあります。
- ・ 飼料摂取量は1日1羽あたり110~115gを基準とし、週齢や季節に応じてこまめに調整してください（参考別添：P23「各週齢における飼料摂取量と配合飼料の種類」、P24「飼料摂取量の推移および配合飼料成分」）。

## ○ 暑熱期の管理について

- ・ 暑熱期は産卵率、卵重、卵殻強度、卵殻厚等、生産性の低下が認められます（参考別添：P32「暑熱ストレスが産卵性に及ぼす影響」）。
- ・ 飼料摂取量も通常期より約20%低下（1日1羽100g以下）することがあります（参考別添：P23「各週齢における飼料摂取量と配合飼料の種類」の表中の72～79週齢時が暑熱期間中の飼料摂取量）。
- ・ 鶏舎内に扇風機を設置する等、風通しを良くしてください。
- ・ 体温の放熱のため、密飼いを避け、余裕のある飼育密度を確保してください。単飼ケージに1羽飼いを推奨します。
- ・ 暑熱期の産卵性を少しでも維持させるためには、飼料摂取量の低下を防ぐことが重要です。鶏は給餌直後に活発に食べるため、通常時期の給餌回数が1日1回の場合は、1日2回としてください。
- ・ 腐敗した飼料はすぐに取り除き、新鮮な飼料を常に給餌してください。
- ・ 給餌時間を日中から、気温が低下する早朝と夜間に変更する方法も効果的です。
- ・ 暑熱期、体温を低下させるために冷水を好んで飲みますので、こまめな飲み水の交換をしてください。
- ・ 集卵した鶏卵を室温で保管した場合、卵の鮮度（ハウユニット）の低下を招きます。夏場は集卵の回数を増やし、すぐに冷暗所で保管してください（参考別添：P27「ハウユニット」の図）。

## (4) 廃鶏

### ○ 廃鶏時期の検討について

- ・ 日産卵量は40週齢前後をピークに低下していきます（参考別添：P17「日産卵量の推移」）。
- ・ 卵殻強度は50週齢前後から少しずつ低下していきます（参考別添：P25「週毎の卵殻強度および卵殻厚」）。
- 70週齢以降、市販鶏卵の卵殻強度の平均値を下回る水準へと下降していきます。
- ・ 72～76週齢を目安に、廃鶏を推奨します。
- ・ 経営効率を高めるため、日産卵量、卵殻強度、新たな雛の導入時期、鶏舎の洗浄・消毒期間、空舎期間等から損益分岐点を計算し、計画的な廃鶏を行ってください。
- ・ 廃鶏の前日には断餌をしてください。

## (5) 光線管理

### ○ 光線管理について

- ・ 導入時期の日照時間に応じて、点灯管理プログラムの変更が必要です（参考別添：P30「点灯管理プログラムの一例」の図）。
- ・ 譲渡の際にお渡しする点灯管理プログラムに応じた点灯時間の調整をお願いします。日照時間と重なっている時間帯については、鶏舎内を消灯しても問題ありません。
- ・ 一つの鶏舎内に他の週齢の鶏を同時に飼育するなど、当該導入鶏専用の点灯管理プログラムを設定できない場合は、一年を通して3:50点灯・19:40消灯（点灯時間15時間50分）を推奨します。
- ・ 平飼い鶏舎等で照明設備がない場合、導入時以降、少しずつ日照時間が長くなる時期に合わせて導入することが適切です。そのため、導入時期は12～2月頃とすることを推奨します。

## (6) 飼料

### ○ 給与飼料の栄養成分について

- ・産卵性能を最大限高めるために、採卵鶏用配合飼料を推奨します。

※別添の産卵成績、卵質成績等の参考データは全て採卵鶏用配合飼料を使用したものです（参考別添：P24「飼料摂取量の推移および配合飼料成分」の表の配合飼料を使用）。

### ○ 産卵開始前の給与飼料について

- ・5%産卵率到達日齢までは大雛用飼料を給与し、その後、成鶏用飼料とすることが適切です。5%産卵率到達日齢は、夏季に開放型鶏舎へ導入した場合で129日齢前後、冬季の場合で136日齢前後です。鶏舎導入後、約2～3週間で5%産卵率到達日齢となりますので、大雛用飼料を準備できない場合は、導入直後から成鶏用飼料を使用することも可能です。

### ○ 自家配合飼料について

- ・もみ米、米ぬか、大豆粕等による自家配合飼料を使用する場合は、市販の採卵鶏用配合飼料の成分表、「日本飼養標準家禽（中央畜産会）」、「日本標準飼料成分表（中央畜産会）」、「飼料の公定規格（独立行政法人農林水産消費安全技術センター）※」等を参考に配合割合の設計を行ってください。

※ 飼料の公定規格：<http://www.famic.go.jp/ffis/feed/kokuji/k51n756.html>

- ・自家配合飼料を使用の場合、給与量が要求量を満たしているかだけでなく、飼料の残量から1日1羽あたりの飼料摂取量を測定することにより、摂取量が要求量を満たしているかを確認することが重要です。
- ・乾燥されていない飼料は腐敗に注意してください。塩分、油分が強い飼料は下痢の原因となりますので、鶏糞の状態を常に観察してください。

## 4 体型・外観・標準能力

### (1) 体型・外観

ピーク時の体重	2.47kg(60週齢)
とさかの形状	単冠50%、その他形状(豆冠、三枚冠等)50%
卵殻色	赤色～ピンク色

### (2) 18週齢～80週齢時の標準能力

生存率		96.7%
50%産卵日齢		149日齢
ヘンディ産卵率		85.1%
ヘンハウス産卵個数		365個
ピーク時のヘンディ産卵率	23～43週齢	93.9～98.9%
平均卵重	20週齢時	42.7g
	40週齢時	59.3g
	60週齢時	60.5g
	80週齢時	59.4g
1日1羽あたり飼料摂取量	20～28週齢	81～104g
	29～80週齢	95～133g
飼料要求率		2.2

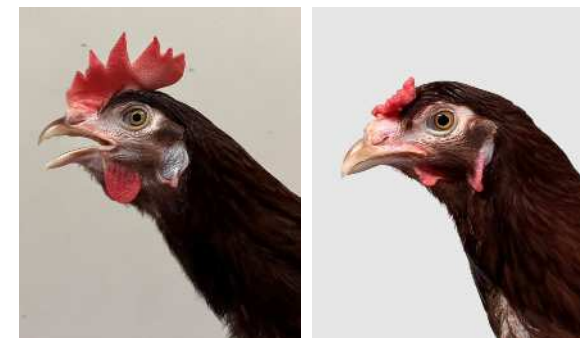


写真 とさかの形状  
(左：単冠、右：豆冠)

# 5 参考

## ○ 産卵性能

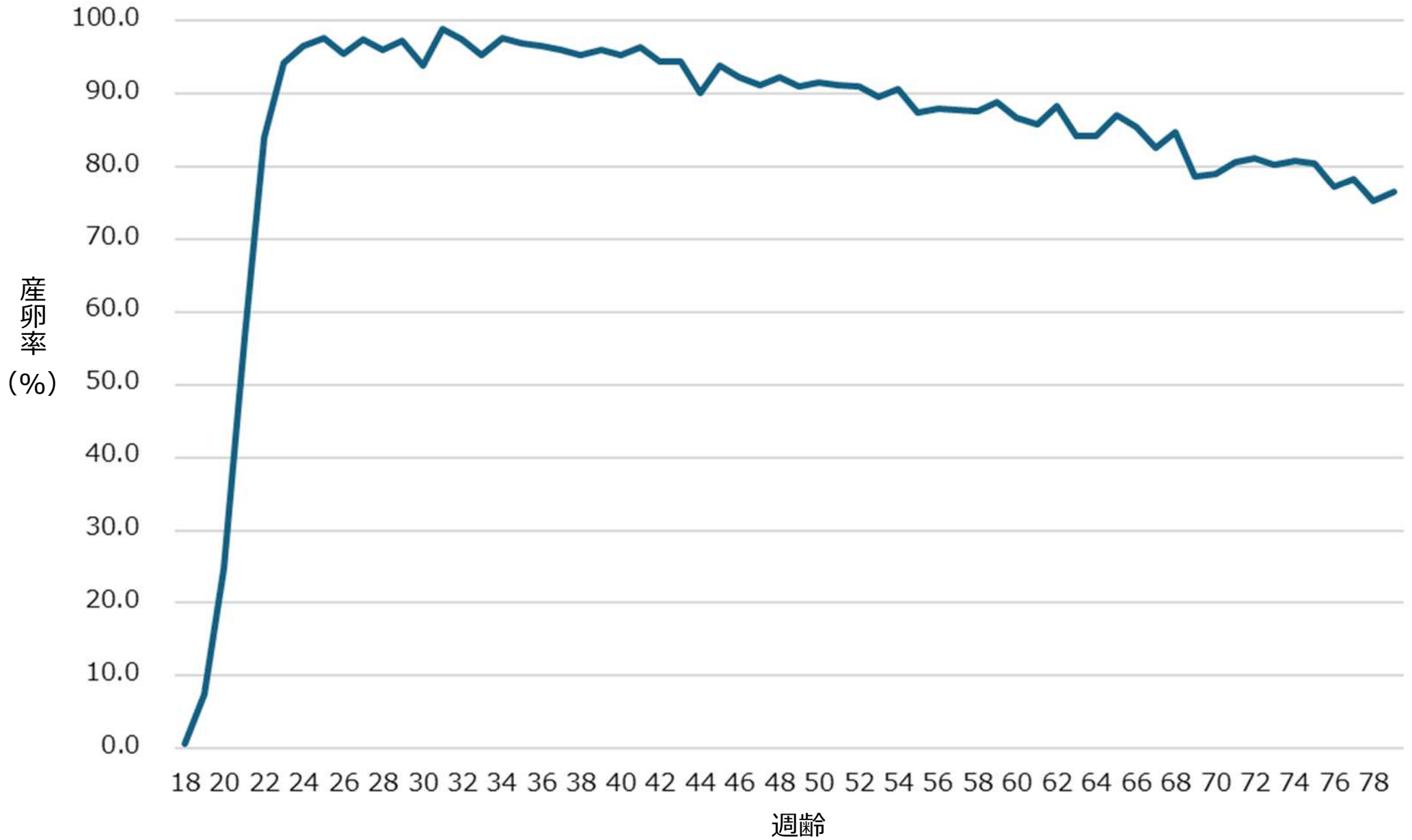
### 週齢毎の産卵能力

週齢	生存率 %	ヘンディ		ヘンハウス			平均卵量 g
		産卵率 %	日産卵量 g/羽	産卵率 %	累計個数 個	累計重量 kg	
18	100	0.7	0.2	0.7	0.0	0.001	26.3
19	100	7.4	2.9	7.4	0.6	0.02	39.7
20	100	24.9	10.6	24.9	2.3	0.10	42.7
21	100	56.5	25.4	56.5	6.3	0.28	44.9
22	100	84.0	39.9	84.0	12.1	0.58	47.5
23	100	94.2	46.3	94.2	18.7	0.92	49.2
24	100	96.6	48.9	96.6	25.5	1.29	50.6
25	100	97.7	50.5	97.7	32.3	1.67	51.7
26	100	95.5	50.3	95.5	39.0	2.05	52.6
27	100	97.5	52.0	97.5	45.8	2.44	53.3
28	100	96.1	51.6	96.1	52.6	2.83	53.7
29	100	97.3	53.4	97.3	59.4	3.26	54.8
30	100	93.9	52.0	93.9	66.0	3.65	55.3
31	100	98.9	55.2	98.9	72.9	4.07	55.9
32	100	97.5	55.1	97.5	79.7	4.50	56.5
33	100	95.3	54.3	95.3	86.4	4.92	57.0
34	100	97.6	56.7	97.6	93.2	5.41	58.1
35	100	97.0	56.6	97.0	100.0	5.84	58.4
36	100	96.6	56.6	96.6	106.8	6.26	58.6
37	100	96.0	56.5	96.0	113.5	6.68	58.8
38	100	95.3	56.4	95.3	120.2	7.10	59.1
39	100	96.1	56.8	96.1	126.9	7.50	59.1
40	100	95.3	56.6	95.3	133.6	7.93	59.3
41	100	96.4	57.3	96.4	140.3	8.34	59.5
42	100	94.4	56.7	94.4	146.9	8.83	60.1
43	100	94.5	56.8	94.5	153.5	9.23	60.1
44	100	90.1	53.7	90.1	159.8	9.53	59.7
45	100	93.9	55.9	93.9	166.4	9.90	59.5
46	100	92.3	55.0	92.3	172.9	10.31	59.6
47	99.7	91.1	55.0	90.9	179.2	10.82	60.4
48	99.3	92.3	56.0	91.7	185.6	11.26	60.6

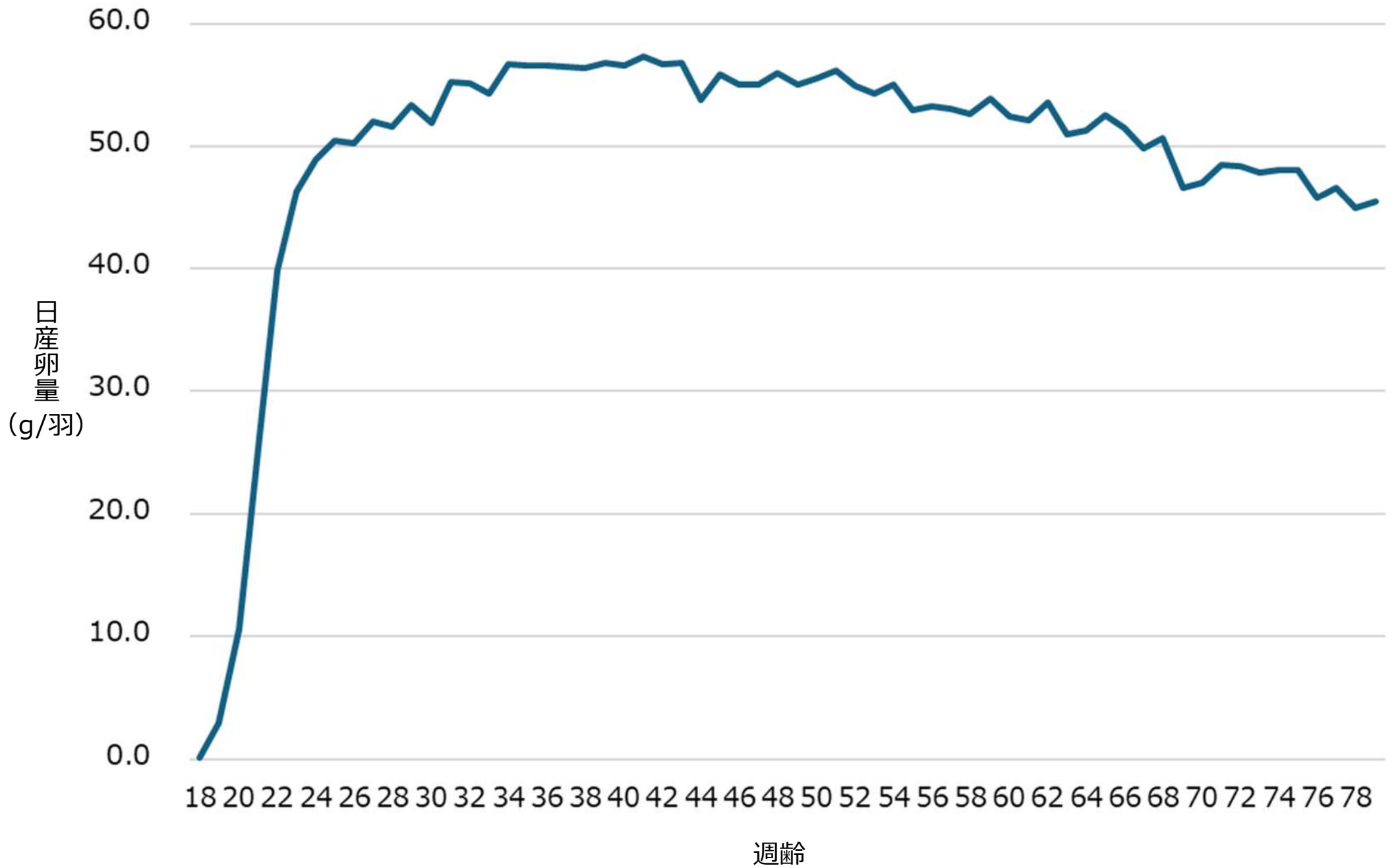
週齢	生存率 %	ヘンディ		ヘンハウス			平均卵量 g
		産卵率 %	日産卵量 g/羽	産卵率 %	累計個数 個	累計重量 kg	
49	99.0	91.0	55.1	90.2	192.0	11.61	60.5
50	98.7	91.6	55.6	90.4	198.3	12.04	60.7
51	98.7	91.2	56.2	90.0	204.6	12.60	61.6
52	98.7	91.0	54.9	89.8	210.9	12.71	60.3
53	98.7	89.7	54.3	88.5	217.1	13.15	60.6
54	98.7	90.6	55.1	89.4	223.3	13.57	60.8
55	98.7	87.5	52.9	86.4	229.4	13.87	60.5
56	98.7	88.0	53.3	86.9	235.4	14.25	60.5
57	98.5	87.8	53.1	86.5	241.5	14.59	60.4
58	98.0	87.7	52.6	85.9	247.5	14.86	60.1
59	98.0	88.8	53.8	87.0	253.6	15.37	60.6
60	98.0	86.7	52.5	85.0	259.6	15.71	60.5
61	97.3	85.8	52.1	83.5	265.4	16.11	60.7
62	97.3	88.4	53.6	86.0	271.4	16.47	60.7
63	97.3	84.3	51.0	82.0	277.2	16.77	60.5
64	97.3	84.2	51.3	82.0	282.9	17.23	60.9
65	97.3	87.2	52.5	84.9	288.8	17.41	60.3
66	97.3	85.4	51.5	83.1	294.7	17.79	60.4
67	97.3	82.5	49.8	80.4	300.3	18.12	60.4
68	97.3	84.7	50.6	82.5	306.1	18.30	59.8
69	97.3	78.6	46.6	76.6	311.4	18.46	59.3
70	97.3	79.0	47.0	77.0	316.8	18.86	59.5
71	97.3	80.6	48.5	78.5	322.3	19.39	60.2
72	97.3	81.1	48.4	79.0	327.8	19.55	59.6
73	97.3	80.3	47.8	78.2	333.3	19.85	59.5
74	97.3	80.7	48.1	78.4	338.8	20.17	59.5
75	96.7	80.5	48.0	77.8	344.2	20.55	59.7
76	96.7	77.2	45.8	73.8	349.4	20.72	59.3
77	96.7	78.4	46.6	75.0	354.6	21.10	59.5
78	96.7	75.2	44.9	71.9	359.7	21.48	59.7
79	96.7	76.6	45.5	73.2	364.8	21.68	59.4

※産卵率及び産卵個数は、奇形卵・軟卵を除く正常卵(卵黄1つ)・二黄卵・ヒビ卵・破損卵を集計している  
平均卵重は、正常卵・ヒビ卵を集計している

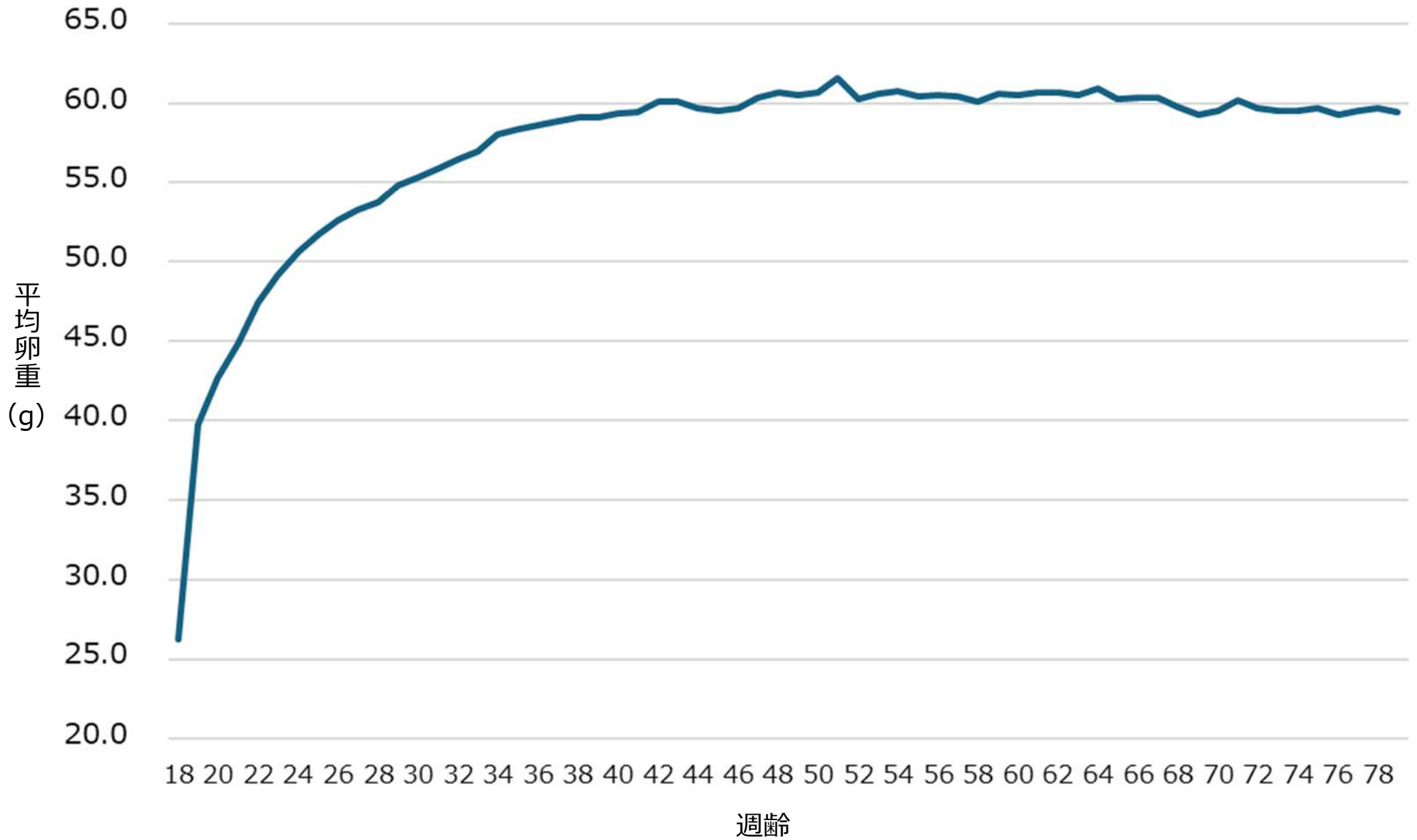
# ヘンディ産卵率の推移



# 日産卵量の推移



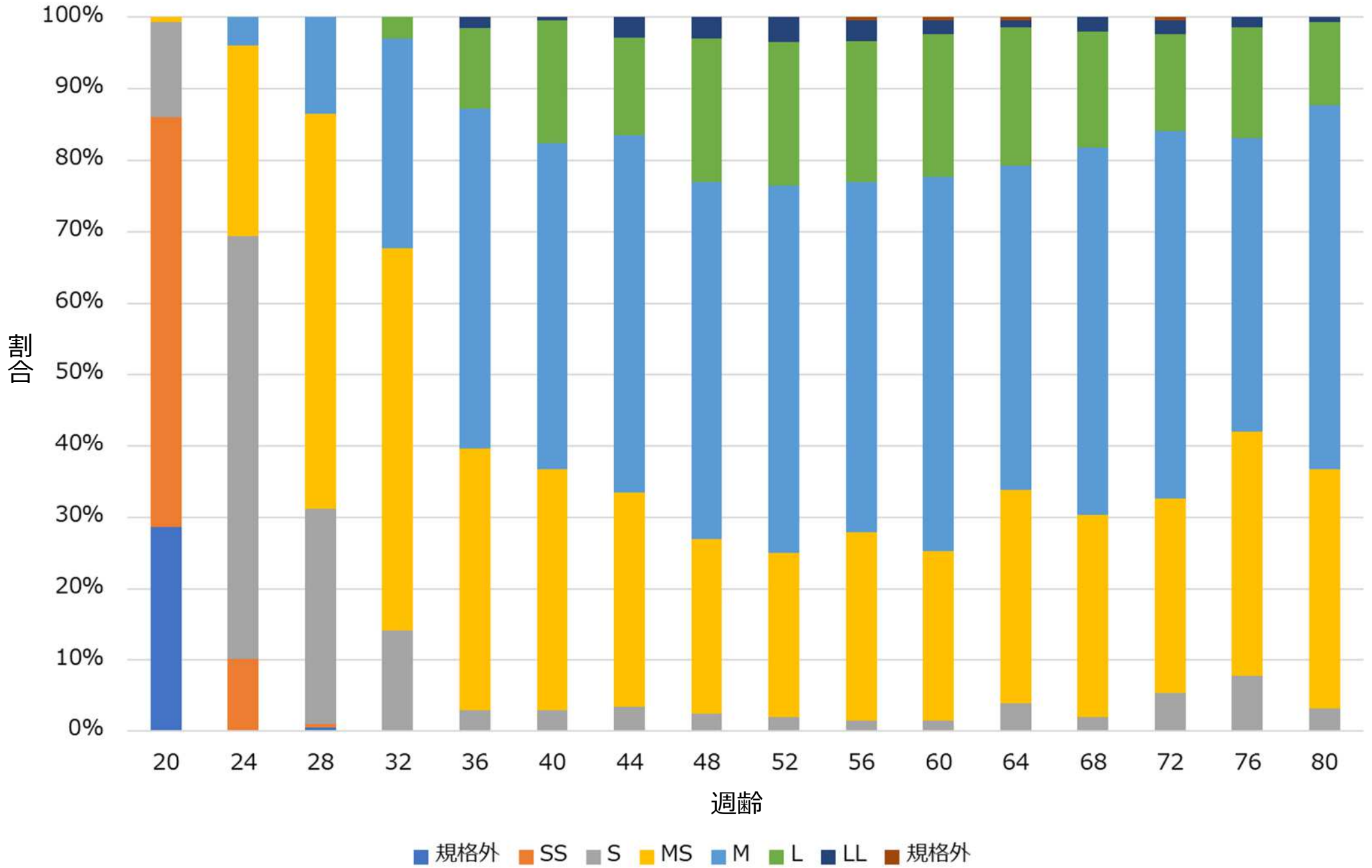
# 平均卵重の推移



## 週毎の平均卵重および鶏卵規格別の割合

週齡	平均 卵重 g	鶏 卵 規 格 別							
		規格外	SS	S	MS	M	L	LL	規格外
		40g未満 %	40g以上～ 46g未満 %	46g以上～ 52g未満 %	52g以上～ 58g未満 %	58g以上～ 64g未満 %	64g以上～ 70g未満 %	70g以上～ 76g未満 %	76g以上 %
20	42.0	28.7	57.4	13.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
24	50.5	0.0	10.2	59.2	26.7	3.9	0.0	0.0	0.0
28	53.5	0.5	0.5	30.3	55.3	13.5	0.0	0.0	0.0
32	56.1	0.0	0.0	14.2	53.4	29.4	2.9	0.0	0.0
36	59.4	0.0	0.0	2.9	36.8	47.5	11.3	1.5	0.0
40	59.8	0.0	0.0	2.9	33.8	45.6	17.2	0.5	0.0
44	60.0	0.0	0.0	3.4	30.1	50.0	13.6	2.9	0.0
48	60.5	0.0	0.0	2.5	24.5	50.0	20.1	2.9	0.0
52	60.8	0.0	0.0	2.0	23.0	51.5	20.1	3.4	0.0
56	60.6	0.0	0.0	1.4	26.4	49.0	19.7	2.9	0.5
60	60.8	0.0	0.0	1.5	23.8	52.4	19.9	1.9	0.5
64	60.2	0.0	0.0	3.9	30.0	45.4	19.3	1.0	0.5
68	60.3	0.0	0.0	2.0	28.4	51.5	16.2	2.0	0.0
72	59.7	0.0	0.0	5.3	27.4	51.4	13.5	1.9	0.5
76	59.0	0.0	0.0	7.7	34.3	41.1	15.5	1.4	0.0
80	59.4	0.0	0.0	3.2	33.5	51.0	11.6	0.6	0.0

# 週毎の鶏卵規格別の割合



# 週毎の体重

週齢	体重 g
0	37
4	326
8	956
12	1,420
16	1,707
20	1,949
24	2,031
28	2,091
32	2,173
36	2,269
40	2,355
44	2,408
48	2,413
52	2,395
56	2,454
60	2,472
64	2,466
68	2,470
72	2,451
76	2,404
80	2,426

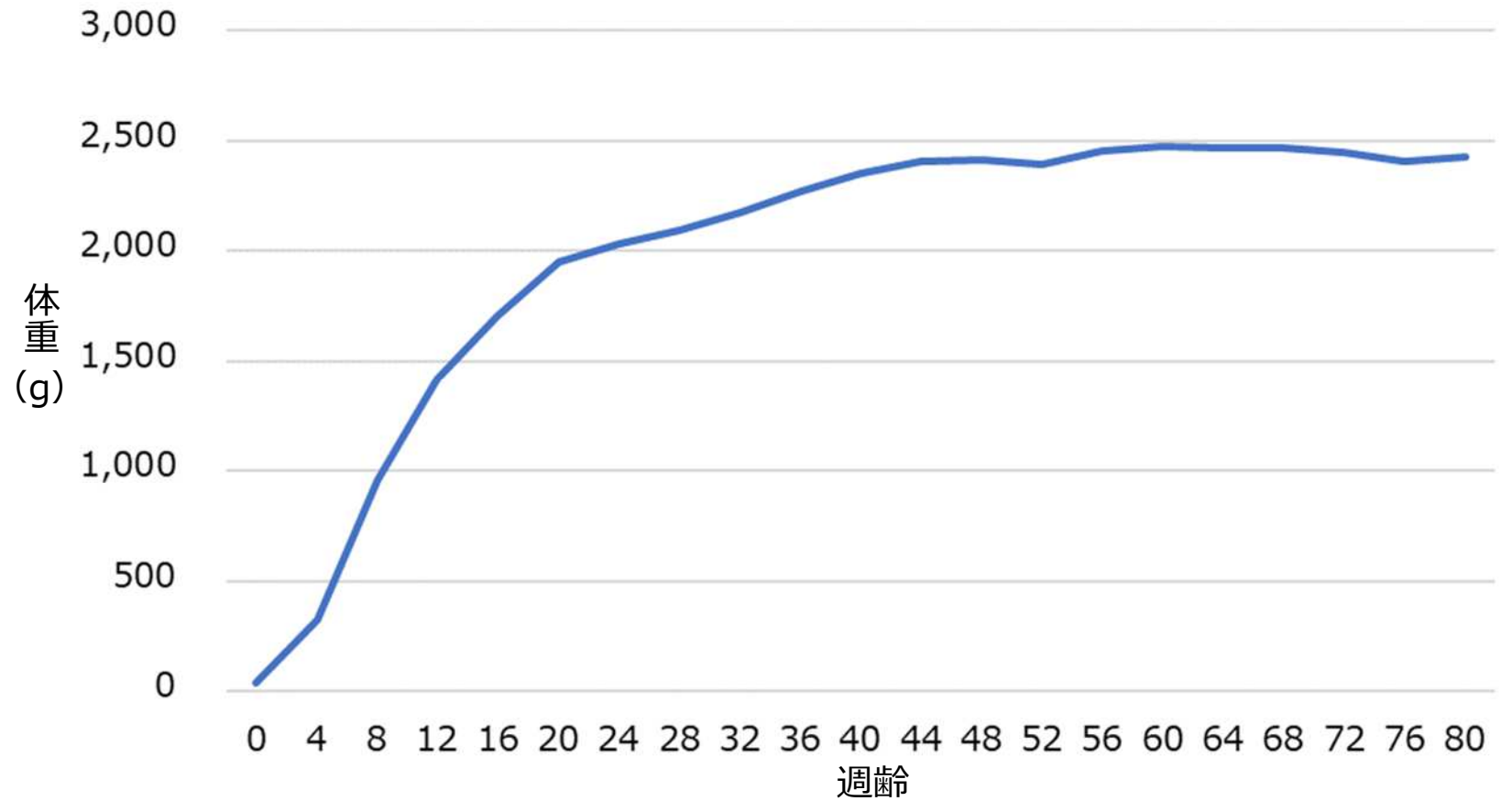





写真 幅23cmケージに収容した状態  
(写真の鶏：体重2,600~2,700g)

# 食鳥時のと体重および正肉重量

表 食鳥処理時のと体重および正肉重量(80週齢時)

体重	と体重	正肉重量
2,426g	2,238g	753g [ ムネ(両側) : 272g モモ(両側) : 409g ササミ(両側) : 71g
		 <p>ムネ</p> <p>モモ</p> <p>ササミ</p>

# ○ 飼料

## 各週齢における飼料摂取量と配合飼料の種類

週齢	飼料摂取量		配合飼料
	期間内 1日1羽当たり g	累計 kg	
0	26.0	0.73	幼雛用
1			
2			
3			
4	62.9	2.49	中雛用
5			
6			
7			
8	80.3	4.73	大雛用
9			
10			
11			
12	94.1	7.37	大雛用
13			
14			
15			
16	81.3	9.65	成鶏用
17			
18			
19			

週齢	飼料摂取量		配合飼料
	期間内 1日1羽当たり g	累計 kg	
20~23	81.6	11.93	成鶏用
24~27	103.6	14.83	
28~31	111.8	17.96	
32~35	127.3	21.53	
36~39	133.3	25.26	
40~43	113.7	28.44	
44~47	111.6	31.57	
48~51	122.3	34.99	
52~55	116.8	38.26	
56~59	115.7	41.50	
60~63	118.4	44.82	
64~67	118.7	48.14	
68~71	108.8	51.19	
72~75	95.4	53.86	
76~79	98.9	56.63	



# 飼料摂取量の推移および配合飼料成分

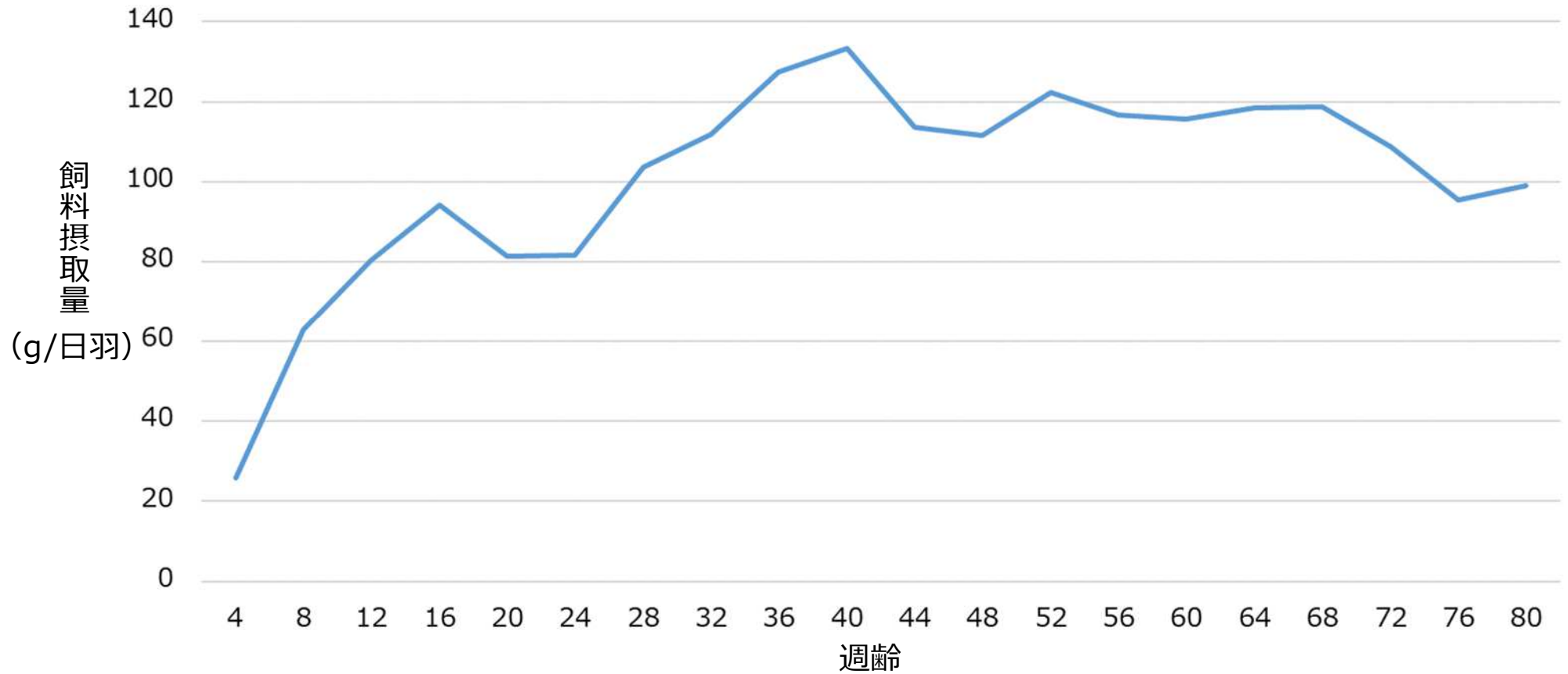


図 1日1羽あたりの飼料摂取量の推移

表 配合飼料成分表の一例

飼料の種類	粗たんぱく質	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	カルシウム	りん	代謝エネルギー1kg中
幼雛用配合飼料	21.0%以上	3.0%以上	5.0%以上	8.0%以上	0.80%以上	0.55%以上	3,000kcal以上
中雛用配合飼料	18.0%以上	2.0%以上	6.0%以上	9.0%以上	0.80%以上	0.45%以上	2,850kcal以上
大雛用配合飼料	14.0%以上	2.0%以上	6.0%以上	9.0%以上	0.80%以上	0.45%以上	2,750kcal以上
成鶏用配合飼料	17.0%以上	3.0%以上	6.0%以上	14.5%以上	2.70%以上	0.45%以上	2,850kcal以上

# ○ 鶏卵の品質

## 週毎の卵殻強度および卵殻厚

週齢	卵殻強度 kgf	卵殻厚 mm
20	3.76	0.32
24	3.90	0.33
28	3.65	0.32
30	3.78	0.35
32	3.66	0.33
36	3.72	0.34
40	3.94	0.35
44	3.95	0.34
48	3.84	0.35
50	3.81	0.35
52	3.94	0.36
56	3.73	0.35
60	3.56	0.36
64	3.45	0.33
68	3.34	0.33
72	3.40	0.34
76	3.06	0.33
80	3.05	0.33

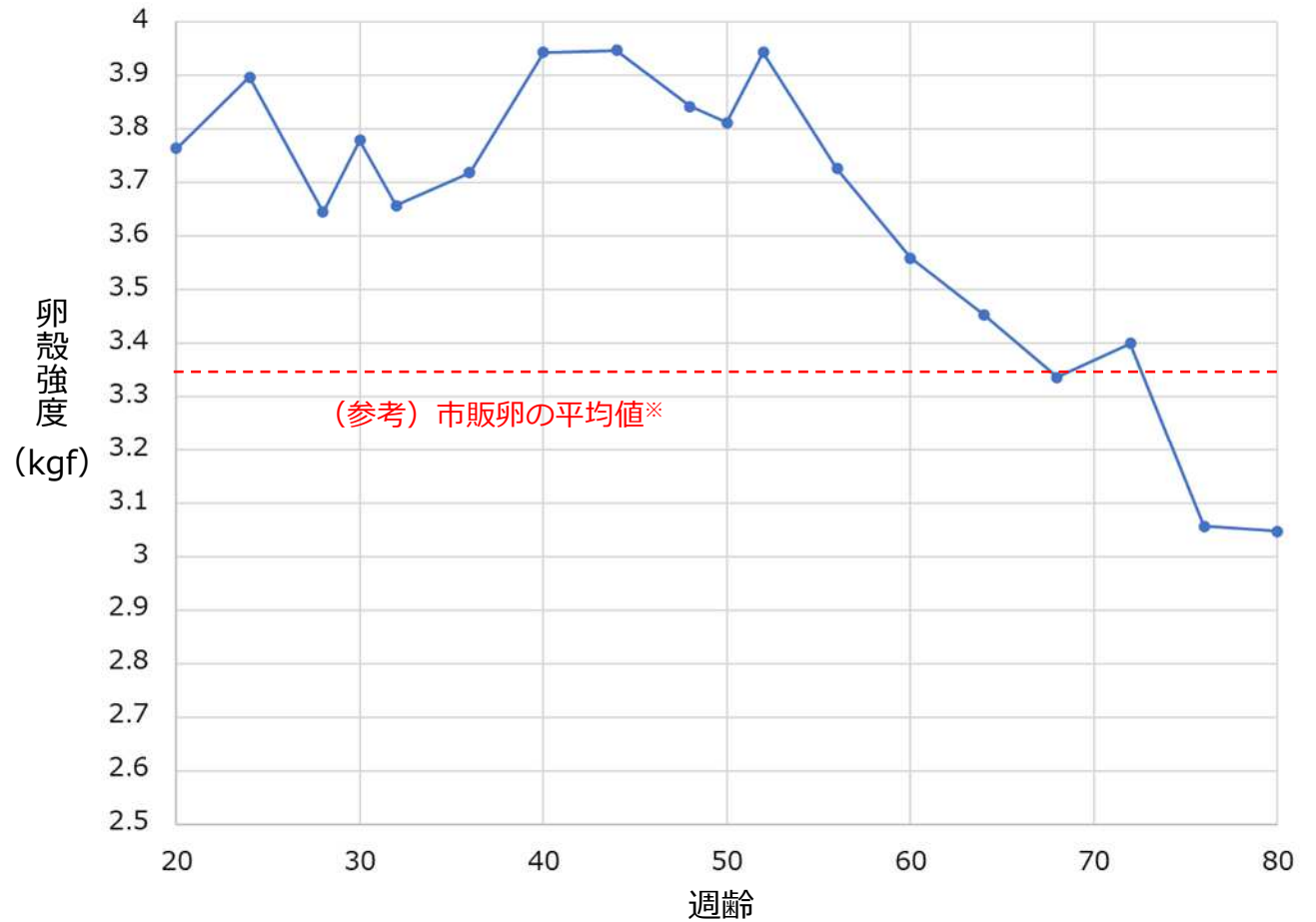


図 卵殻強度の推移

※ 2019年度パック詰小売鶏卵の規格及び品質検査の概要より

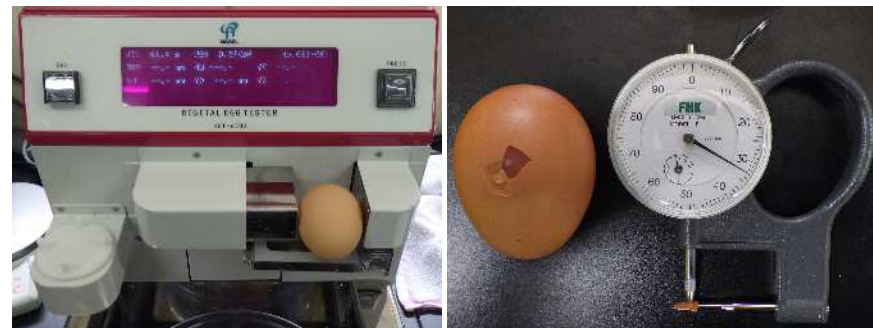


写真 卵殻強度測定(左)と卵殻厚測定(右)

# 卵殻色

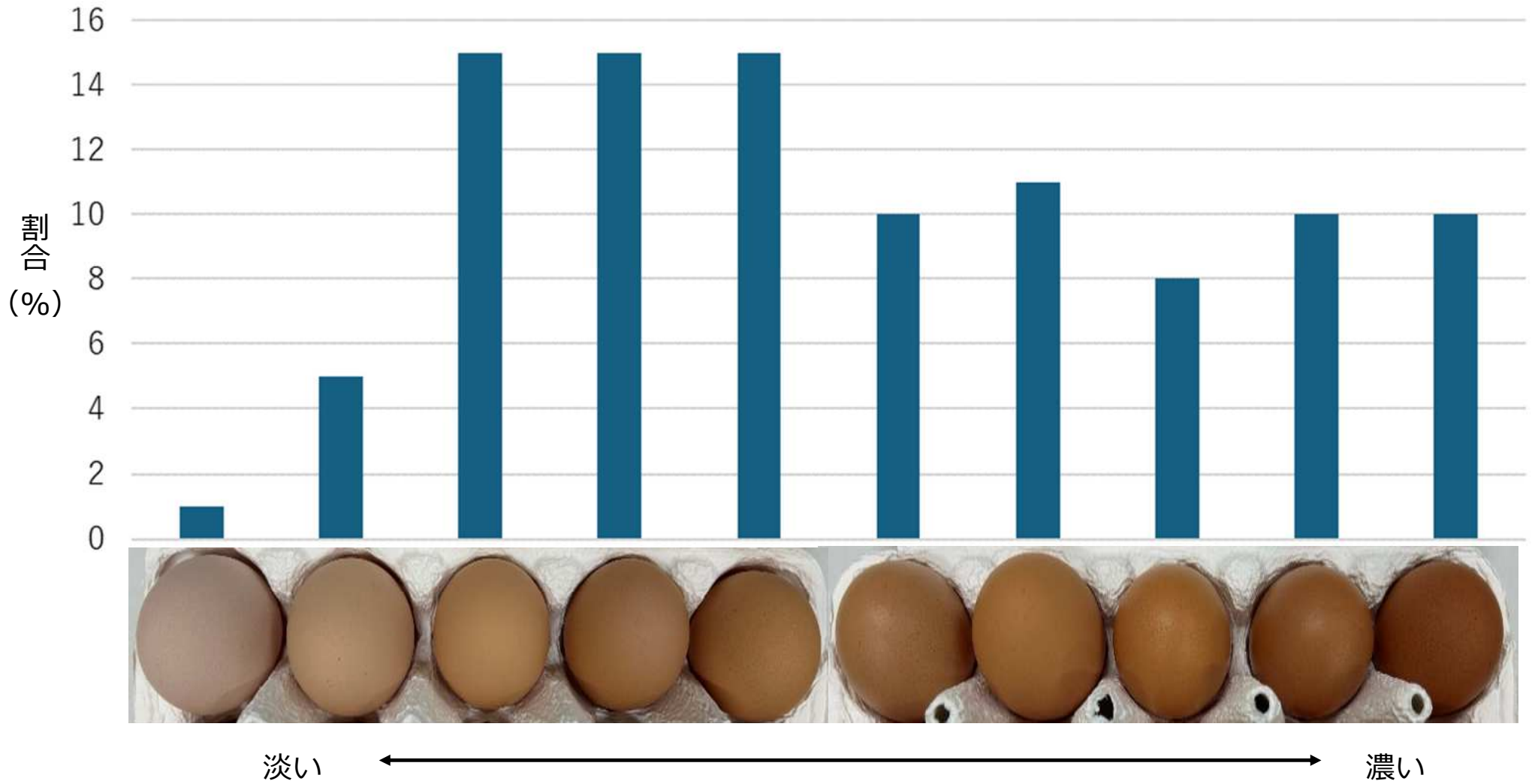
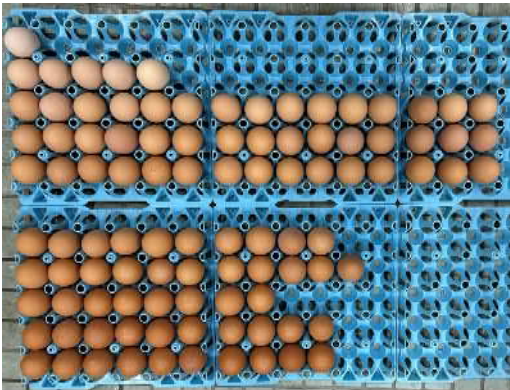


図 卵殻色の濃淡別に10段階に分けた場合の各割合  
(52週齢時)



# ハウユニット

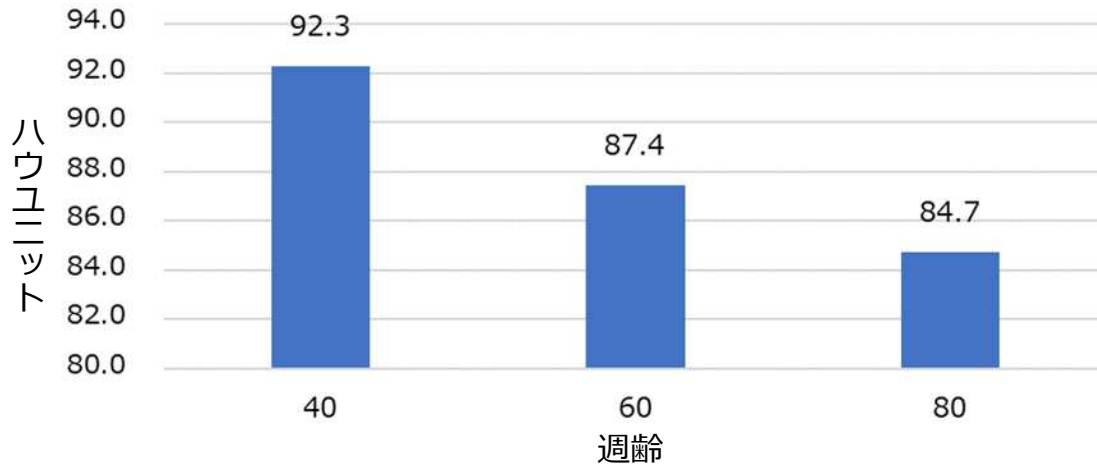


図 週齢別のハウユニットの推移

ハウユニット (HU)

濃厚卵白の劣化度を表す指標で、卵内部の品質を表す指標の一つ

$$HU = 100 \times \log (H - 1.7 W^{0.37} + 7.6)$$

※ H : 濃厚卵白の高さ (mm)  
W : 卵重 (g)

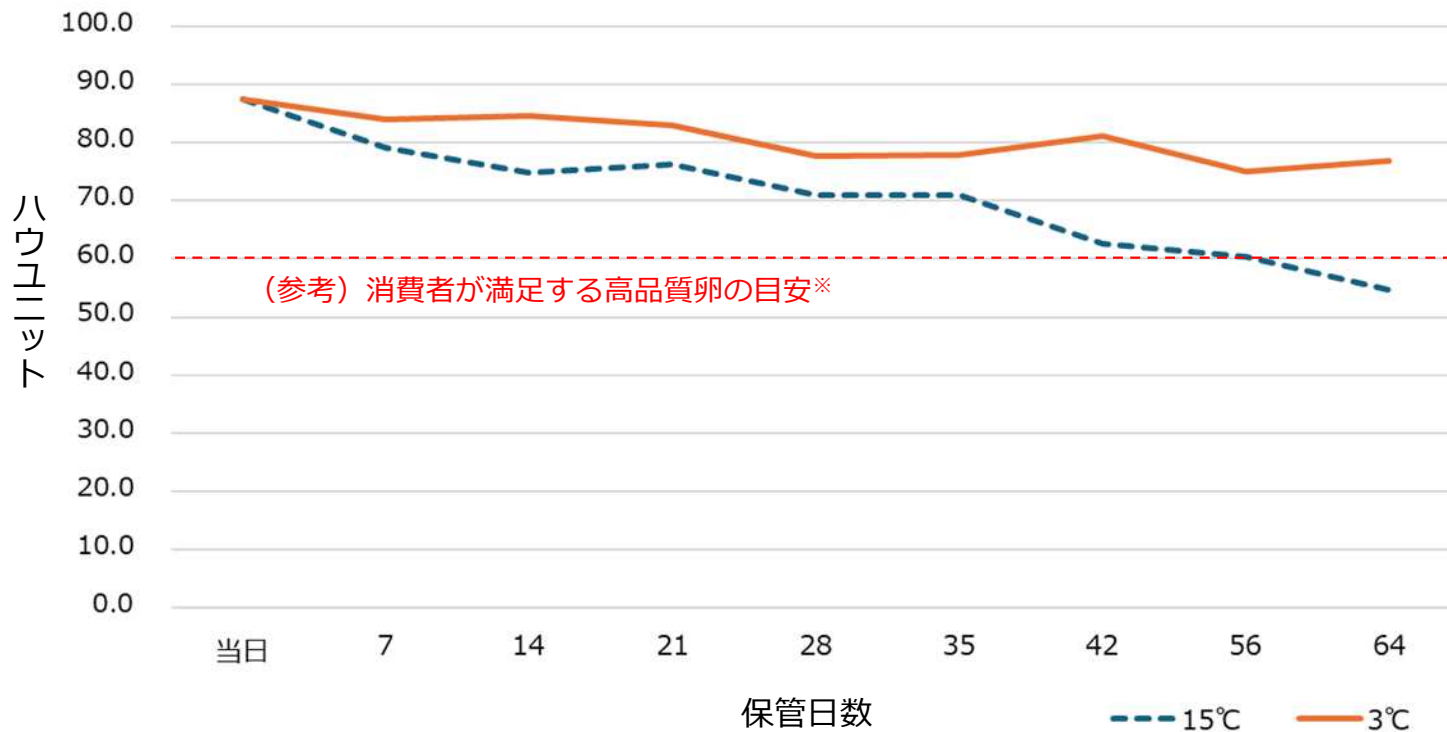


図 保管温度別のハウユニット低下の推移(60週齢時)

※ 山上善久著「鶏卵の品質(株式会社鶏卵肉情報センター)」2017年 第2版より

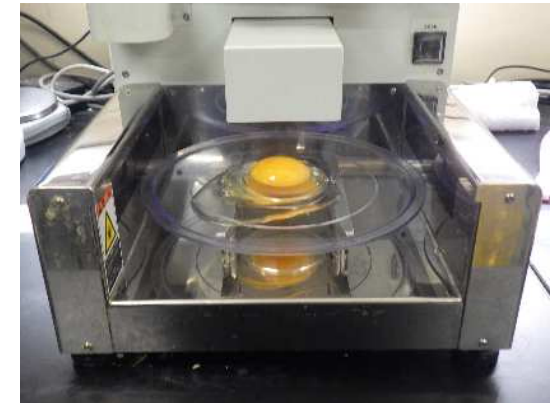


写真 ハウユニット測定

## 卵黄卵重比

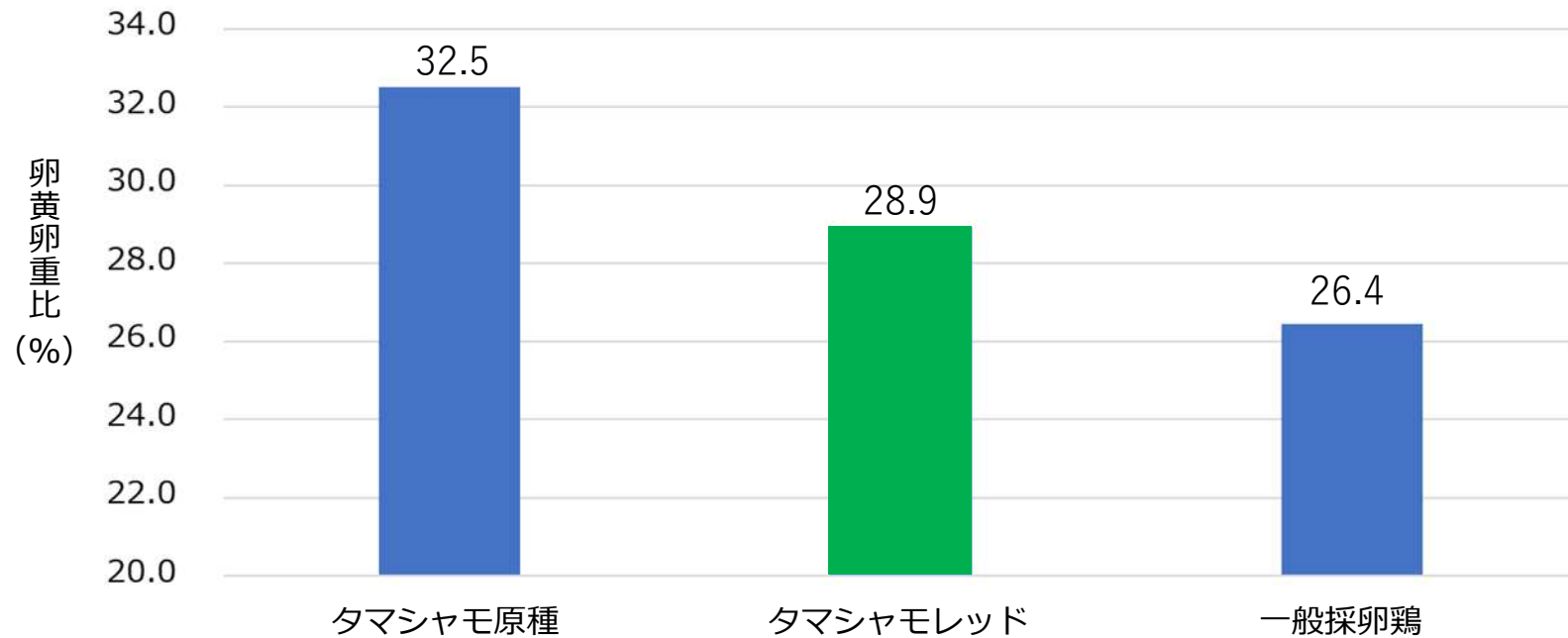


図 卵黄卵重比の比較  
(50週齢時)

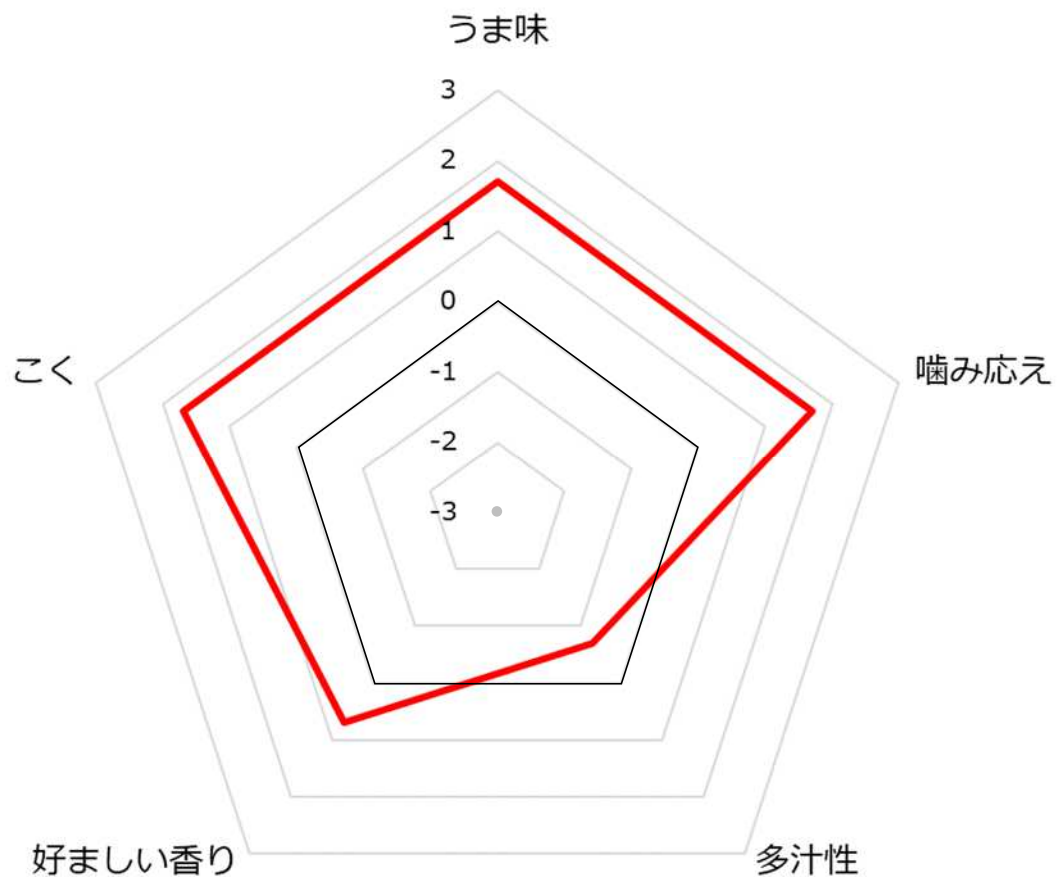
卵黄卵重比 : 卵黄の重さと卵全体の重さの比率を示す

$$\text{卵黄の重さ} \div \text{鶏卵全体の重さ} \times 100 (\%)$$

卵黄卵重比の値が高いほど、卵黄が大きいことを示す  
卵黄が大きいことがシャモの卵の特徴一つ  
タマシャモレッドは一般採卵鶏と比較し、約10%卵黄が大きい

# ○ 成鶏肉の品質

## 成鶏肉の食味評価およびイノシン酸含量



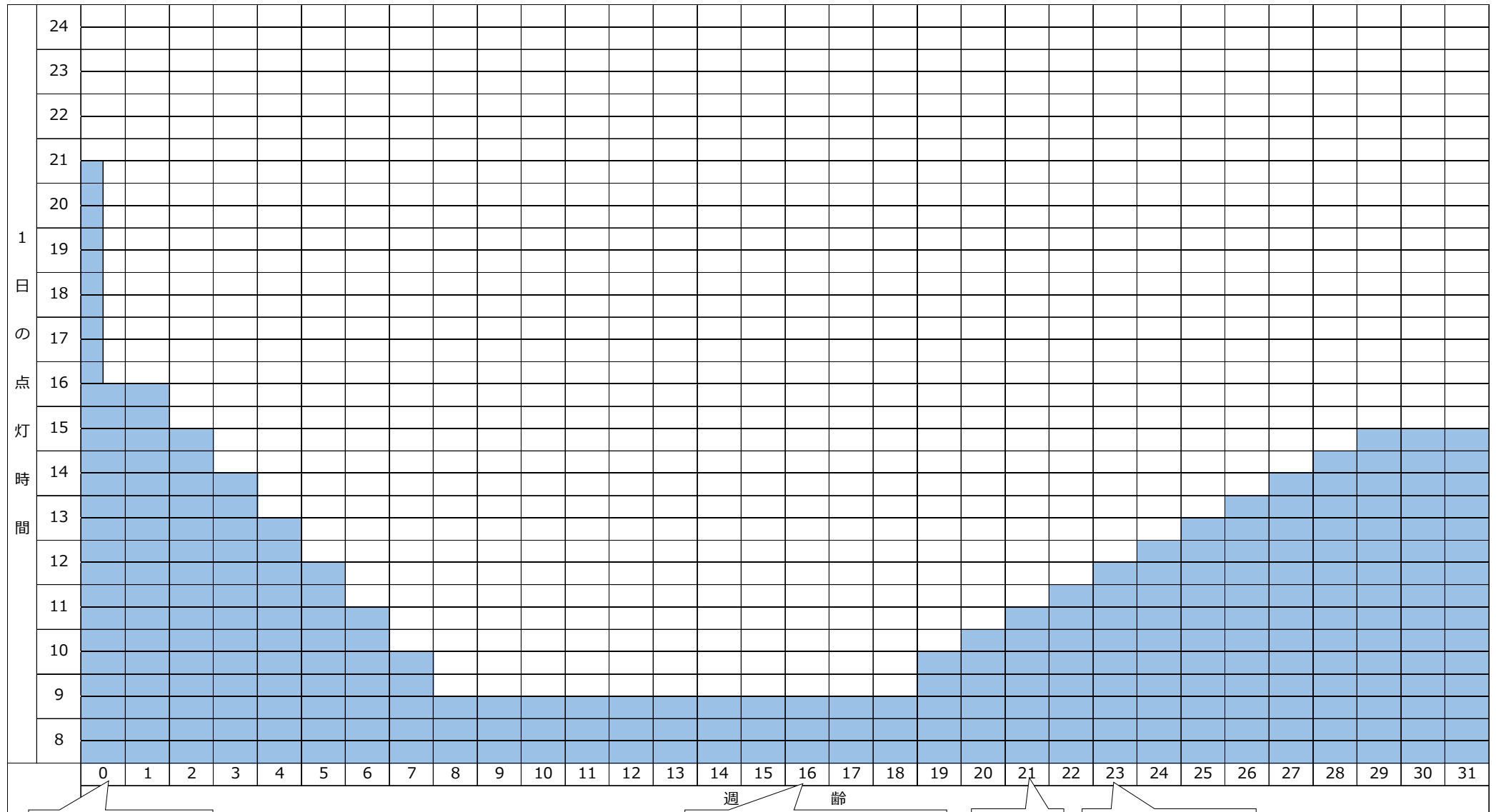
- ・ 検査週齢および検査部位  
80週齢、ムネ肉
- ・ 評価方法  
市販若鶏を0点とした場合の各項目の強さについて  
-3点～+3点の7段階で評価

- ・ 検査週齢および検査部位  
80週齢、ムネ肉

図 市販若鶏を基準とした食味アンケート結果  
(一般社団法人 食肉科学技術研究所調べ)

図 ムネ肉のイノシン酸含量の比較  
(一般社団法人 食肉科学技術研究所調べ)

## 点灯管理プログラムの一例



配布週齢

産卵率  
50%

産卵率  
90%以上

※譲渡の際、当該雛の点灯管理プログラムをお渡しします

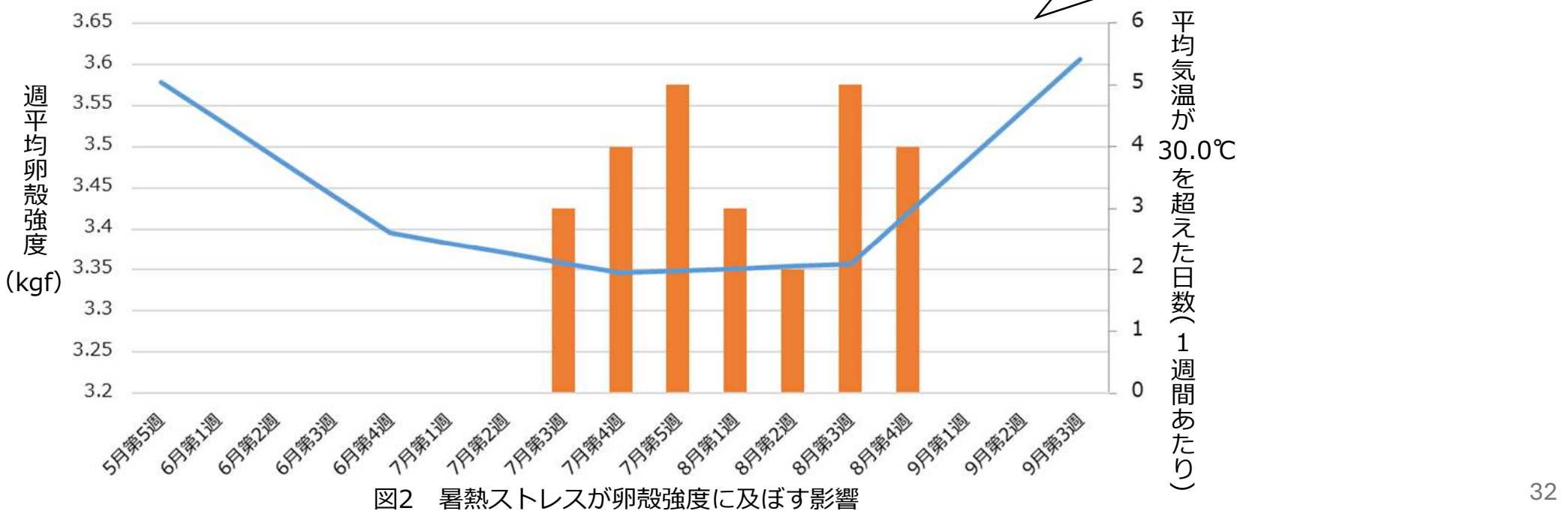
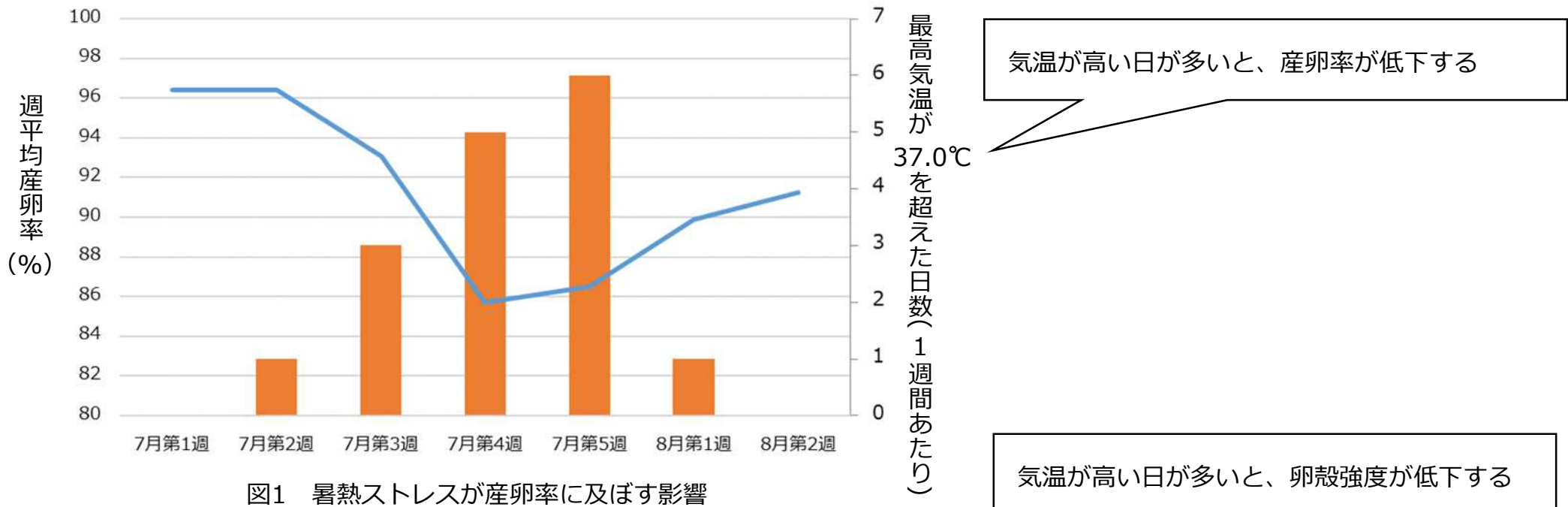
# ワクチン接種

表 育雛期のワクチン接種プログラムの一例

接種週齢	予防する疾病名	ワクチンの種類	接種方法
0	マレック病(MD)	生ワクチン	皮下
0	鶏伝染性気管支炎(IB)	生ワクチン	点眼
0	鶏痘(FP)	生ワクチン	穿刺
1	ニューカッスル病(ND)、鶏伝染性気管支炎(IB)	生ワクチン	飲水
2	伝染性ファブリキウス嚢病(IBD)	生ワクチン	飲水
3	伝染性ファブリキウス嚢病(IBD)	生ワクチン	飲水
4	ニューカッスル病(ND)、鶏伝染性気管支炎(IB)	生ワクチン	点眼
5	鶏伝染性喉頭気管炎 (ILT)	生ワクチン	点眼
8	鶏伝染性気管支炎(IB)	生ワクチン	飲水
10	鶏痘(FP)	生ワクチン	穿刺
11	ニューカッスル病(ND)、鶏伝染性気管支炎(IB)、産卵低下症候群 (EDS) -1976、 鶏伝染性コリーザ (IC) 、マイコプラズマ・ガリセプチカム(MG)感染症	不活化ワクチン	筋肉
15	鶏脳脊髄炎(AE)	生ワクチン	飲水

※大雛(約16週齢)での譲渡のため、育雛期のワクチンは埼玉県農業技術研究センターで接種しています  
譲渡の際、当該雛の接種歴をお渡しします

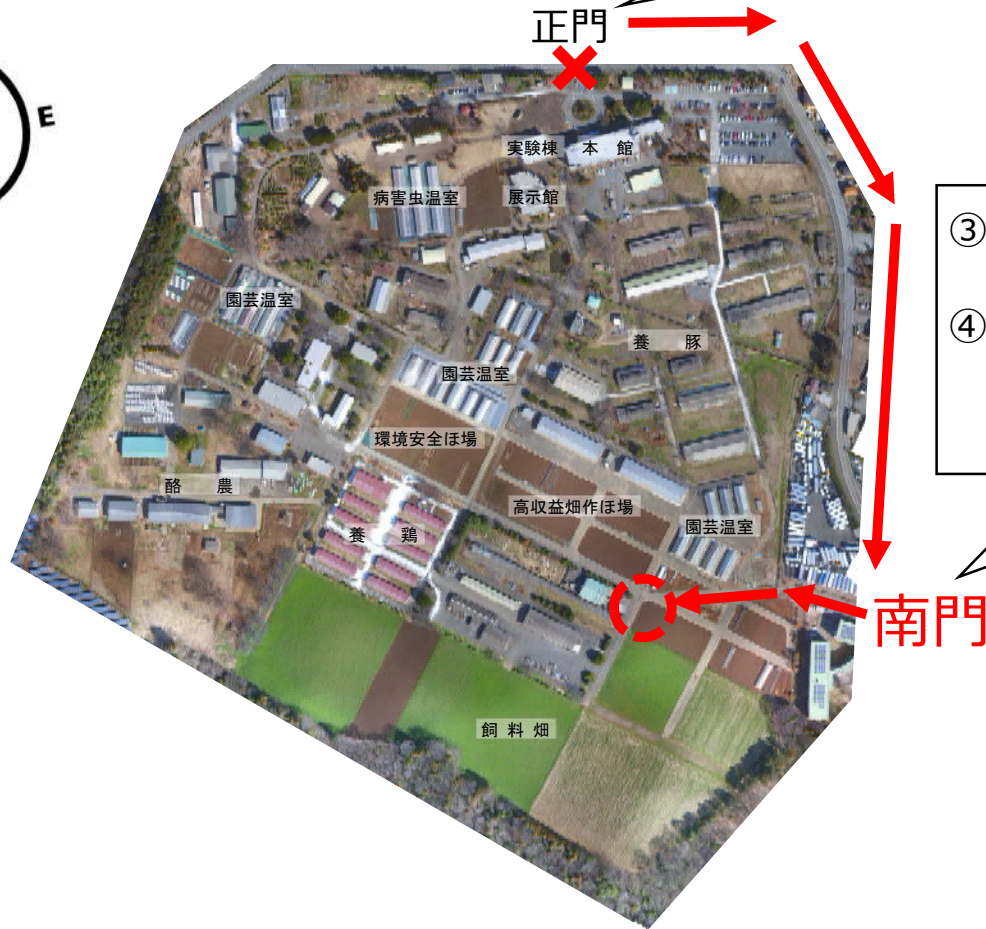
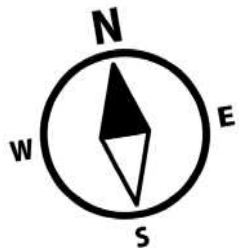
# 暑熱ストレスが産卵性に及ぼす影響



# 雛の受渡し場所の地図

(受渡し場所)  
埼玉県農業技術研究センター 南門  
〒360-0102  
埼玉県熊谷市須賀広784

- ① **到着しましたら、養豚・養鶏担当へ御連絡をお願いします**  
TEL 048-536-0440 (養豚・養鶏担当直通)
  - ② **正門からは入らず、当センターの敷地の外側の道路を時計回りに進んでください**
- ※ 初めて来所される方については、職員が正門より誘導いたします



- ③ **南門から入ってください**
- ④ 門の鍵は職員が開けます  
門の先に消毒ゲートがありますので、車両消毒をさせていただきます